

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 94 回

『「人生ピンチヒッター」 ～ 「チャンスを提供」 ～』

最近、コロナ時代、行事予定の中止、延期のなかで、ダブルブッキングも生じ、交代していただくことが 発生することがある。まさに『ピンチヒッター』が求められる。筆者は、若き日に『人生ピンチヒッターの原点』を、「ドイツの指揮者カラヤン(1908-1989)が 46 歳の時、急逝したフルトヴェングラー(1886-1954)のピンチヒッターを果たし、その成功を機に翌年からベルリン・フィルの指揮者を務めた」と学んだものである。1954 年とは、不思議なことに、筆者の生誕年である。2017 年に『人生ピンチヒッター友の会』が設立され、定期的にニュースレターが発行されている。創刊号(2017 年 10 月 1 日)(添付)には、三国浩晃 会長の『カラヤンに学ぶ人生ピンチヒッター』が掲載されている。筆者は顧問として巻頭言を依頼され 下記を記述した。

『人生ピンチヒッター』の理念は、

1) 「誰にも悪意を抱かず、すべての人に慈愛の心」(リンカーン:1809-1865)をもって、

2) 「チャンスを提供」することであろう。

『人生ピンチヒッター』の 3ヶ条は、

1. 『人に接する呼吸を得ている者』

2. 『性格の悪くない者』

3. 『無規則で始める勇気と胆力を有する者』

であろう。これは、新渡戸稲造(1862-1933)が、国際連盟事務次長の時、「国際連盟事務総長：ドラモンド(1876-1951)」から、学んだことでもある。

想えば、筆者は、2000 年に『新渡戸稲造 武士道 100 周年記念シンポ』、2002 年『新渡戸稲造生誕 140 年』、2003 年『新渡戸稲造没後 70 年』、さらに 2004 年には、国連大学で『新渡戸稲造 5000 円札さようならシンポ』を開催する機会が与えられた。『われ 21 世紀の新渡戸とならん』(日本語版 & 英語版)の出版に繋がった。新渡戸稲造は、国際連盟事務次長だった 1922 年に「国際知的協力委員会」(現ユネスコ)を設置した。当時のメンバーはフランスの哲学者ベルグソン(1859-1941)(議長)、アインシュタイン(1879-1955)やキュリー

夫人(1867-1934)ら12人で構成された。今年(2022年)は100周年であり、新渡戸稲造生誕160周年記念でもある。新渡戸稲造は、「平和のための砦の前哨基地」(国際連盟)で、東西文化の融和を図るところに世界の平和、人類の幸福があると訴え、その実現のために奔走した。「争いのない社会を築くために何を抛りどころに考え、行動すればよいのか」と「国際社会で尊敬を集め、活躍するには日本人はどうすればよいのか」が、「日本の国際的地位向上の新渡戸稲造イズム」と若き日に教わったものである。

人生ピンチヒッター友の会

ニュースレター 創刊号 2017.10.1

『人生ピンチヒッター 友の会』ニュースレター 巻頭言 顧問：樋野興夫

この度、7人の「速効性と英断」によって『人生ピンチヒッター 友の会』が設立され、ニュースレターが、定期発行されることになった。歴史的快挙である。大いに感動した。筆者は、顧問とのことである。

『人生ピンチヒッター』の理念は、

1)「誰にも悪意を抱かず、すべての人に慈愛の心(リンカーン)をもって、2)「チャンスを提供」することであろう。

『人生ピンチヒッター』の3ヶ条は、

1.『人に接する呼吸を得ている者』2『性格の悪くない者』3『無規則で始める勇氣と胆力を有する者』であろう。

これは、新渡戸稲造が、国際連盟事務次長の時、「国際連盟事務総長：ドラモンド」から、学んだことでもある。

「カラヤンに学ぶ人生ピンチヒッター」 会長 三国浩晃

私たちは月1回、樋野興夫先生を囲んで、読書会(新渡戸稲造の武道等)をしていますが、2ヶ月続けて先生の出張が入ってしまい、「お休みにしましょう」と話していると、先生から「まさにこの時のために・・・」のお言葉で『人生ピンチヒッター友の会』が設立されました。

カラヤンは46歳の時、急逝したフルトヴェングラーの役を果たし、その成功を機に翌年からベルリン・フィルの指揮者を務めたのです。

私は頼まれごとに「参ったなあ」と逃げていましたが、これからは「もしかしらこの時のために・・・」を旨に進もうと思います。余談ですが、「カラヤンって知ってる？」と母に尋ねると「覚えていないの？よく家でレコード聞いていたよ。当時あなたはダダダーンと走り回っていたわよ」と。

今は認知症の父が大きなスピーカーでレコードを聞いていた当時の映像が目の前に浮かび胸が熱くなりました。

「エステル」の現代的意義 会長 楠佐 大弥佳寿子

「人生は、もしかしらこの時のため」という言葉が気になり、聖書の中の「エステル記」をさりげなく読んだ。人生には、自分の望まない不条理なことがあり、病気が(がん)もそうであろう。「なぜ、自分がこんな目に」と嘆いたが、「なぜ(Why)」を問うても答えは見つからず、「いかに(How)」に生きるしかないと思った。乳がんと共存し、がん哲学に出逢い、カフェを始めて「今」がある。「もしかしら、この時のため」だったのかとさえ思う。病気にはなりたくなかったが、病気になり与えられた役割・使命もある。

「人生から期待されている」 広報担当 森尚子

今にして思うと人生に期待していた。そんな自分は、病をきっかけに抑うつ状態になった。人と比べて落ち込み、不条理に泣き、自分で自分を苦しめた。「がん哲学外来」に出会い自分は人生から期待されていると思えるようになった。どんな小さな事でも、役割・使命を持つと生き方が変わる。すべての出来事が感謝に変わる。

「夫婦愛」 渉外担当 角田則明

いつも何気なく一緒に生活を共にしていると、当然の様に成される事が当たり前だと勘違いしている事さえ気付かない事が多く、感謝の気持ちを忘れてしまっている。今まで以上、これからも共に歩んで行くには、小さな事にも感謝の念を忘れず、言葉や行動に現して相手に伝えなければと感じた。

お互い出来る事は限られているので、相手が出来ない事には手を差し伸べ、声を掛け、サポートしながらコミュニケーションを密に出来ればと考えております。又、自身の思っている事が、話さなくても分かるだろうとは思わず、分かっているとは思いますが、その一言を話せば相手は一層理解してくれると思ひ、お互いの意志疎通が深まるだろう。

ちょっとした事に気を配ったり、相手の事を思いながら日々一日を過ごしていけば、色んな事に対しても共に、立ち向かっていけると思う。

これからも、相手の気持ちを慮り、新たな気持ちで日々邁進して行きたいと思う次第です。手と手を取って、目指すは『チャーミーグリーン』

「社会貢献」 会計担当 三箇明日香

言うが易くするが難きことのひとつに、社会貢献もあると思います。それは次世代でも、企業、団体、グループ、個人、どの立場でも同じでしょう。貢献を受ける場合、継続は年々力の源となり自活の道も花開くのではないのでしょうか。世の中には、見方と立場を変えると支離滅裂なことが多いように感じます。ここはシンプルに。続けられるようには始める、はじめたら続ける、を大切にしたいと思ひます。するが難きですから。

編集者：『人生ピンチヒッター友の会』岩崎秀子 pchan3954@bf7.so-net.ne.jp

一般社団法人がん哲学外来ホームページ

<http://www.gantetsugaku.org>